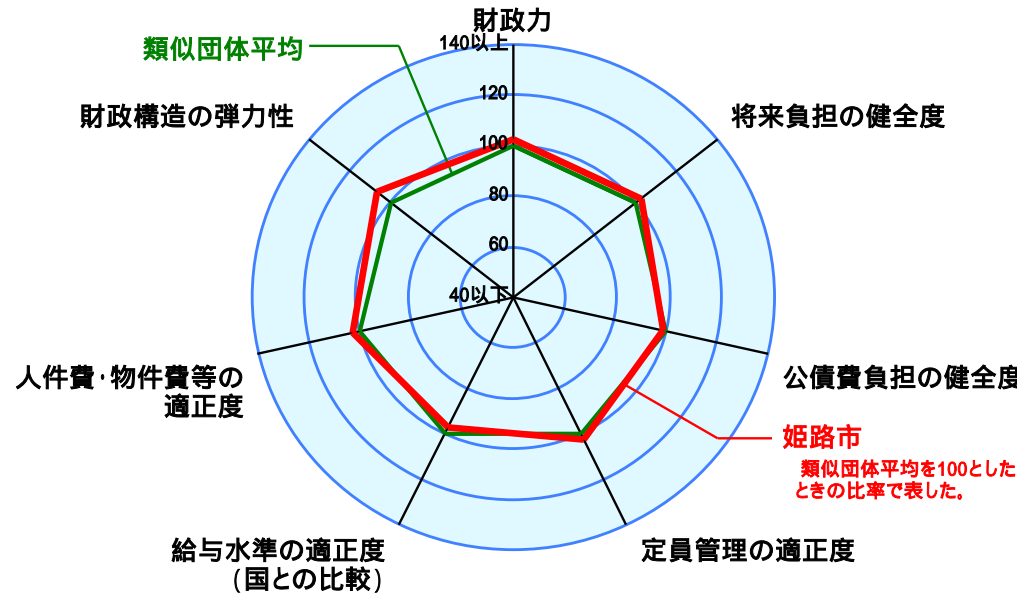
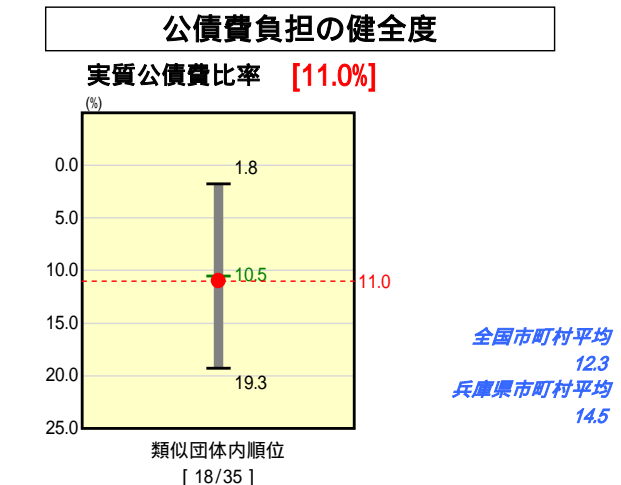
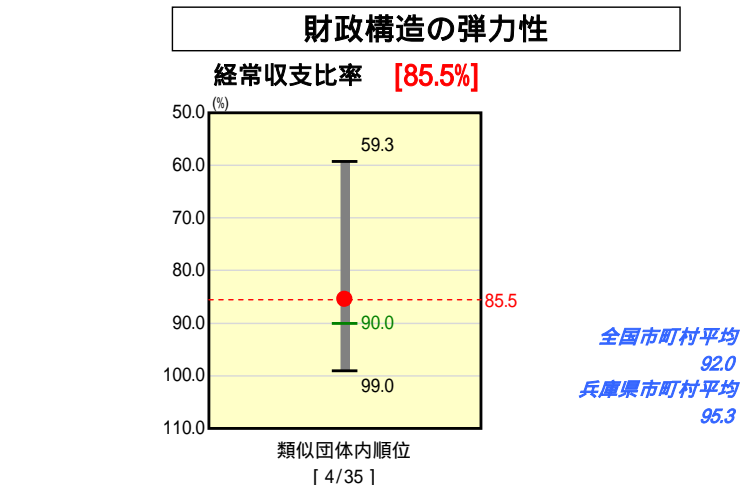
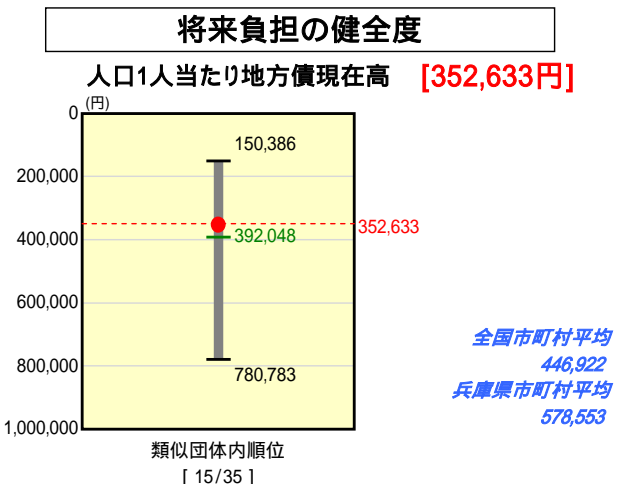
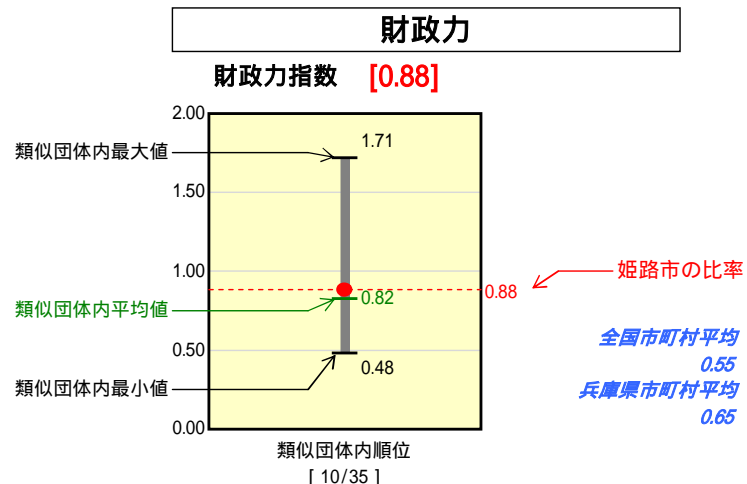


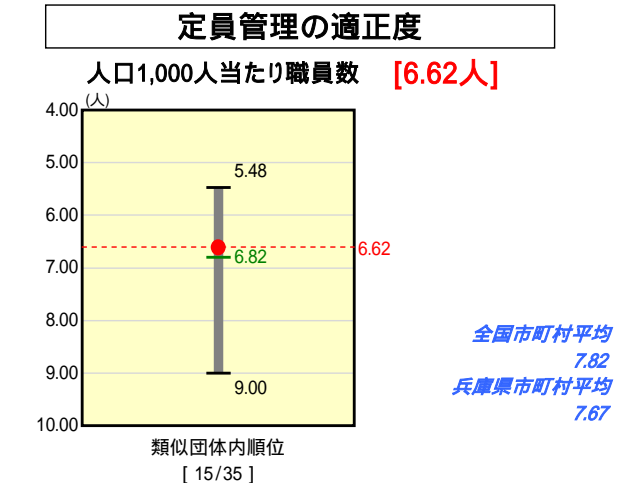
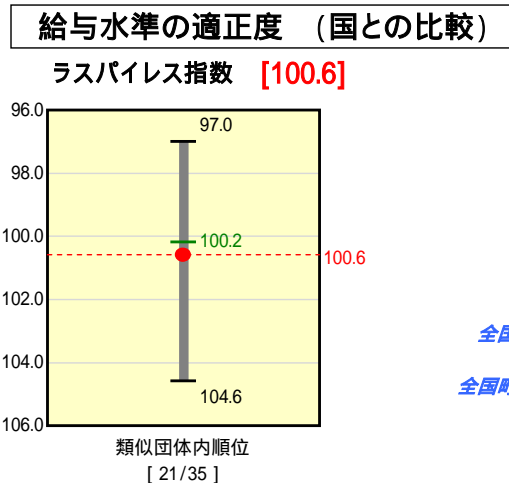
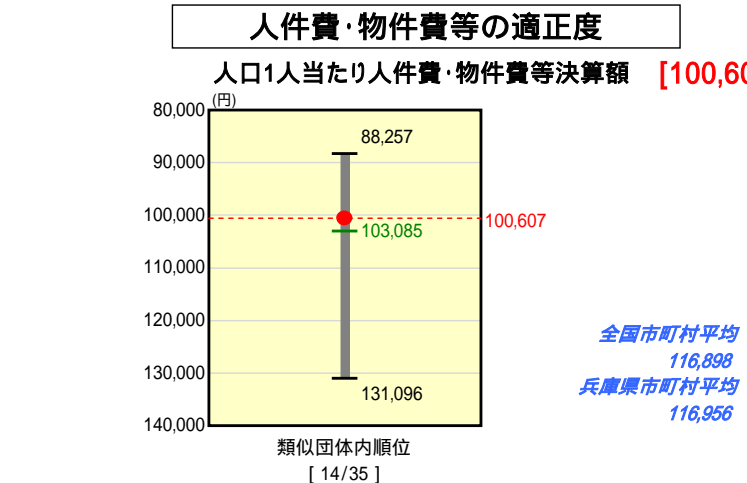
市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

兵庫県 姫路市

人口	533,026	人(H20.3.31現在)
面積	534.27	km ²
歳入総額	200,010,220	千円
歳出総額	191,758,873	千円
実質収支	5,732,789	千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
ラスパイレス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

財政力指数
類似団体平均及び前年度より良い数値となっている。しかし標準的な行政を行うために必要な経費が増大していることに加え、景気低迷による市税収入の増額が見込めないことから、今後、行財政構造改革のさらなる推進による経費節減・合理化を積極的に行い、健全な財政運営に努める。

経常収支比率
類似団体平均より4.5ポイント弾力性が高い状態であるが、平成15年度以降弾力性が低い方向へ推移している。特に平成18年度決算との比較では、5.5ポイント悪化しており、その主な要因として普通交付税等の減により経常一般財源収入額が減少したためである。国の「歳出・歳入一体改革」等により、歳入の大幅な伸びは期待できないことから、より積極的な行財政構造改革による経常的経費の節減に努める。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額
人件費については、合併以前(平成18年3月27日合併)に比べ増加したものの類似団体平均より低額となっており、健全性は維持されている。今後とも行政機構改革による簡素で効率的な業務執行体制の構築、より多様で弾力的な任用と市民参画の推進、職員の意識改革・能力開発などにより、これまで以上に簡素で効率的な行政運営を積極的に進め、適正の度合いを深める。

人口1人当たり地方債現在高
類似団体平均より少なく、前年度からも減少した。今後も適正な水準を維持し、慎重に運用していく。

実質公債費比率
この指標に係る一般会計、特別会計、企業会計及び一部事務組合の地方債の発行及び債務負担行為について中長期の見直しの下、将来の財政運営に支障を及ぼさないよう適正規模の発行に留意し、今後も18.0%未満で推移するよう努める。

人口1,000人当たり職員数
解散した一部事務組合職員の受入れがあったが、類似団体平均を0.2ポイント下回っており、良好な水準は維持されている。平成19年3月に策定した「新姫路市定員適正化計画」に掲げる数値目標(5年間で7.5%の定数を削減(～H22年4月))の実現に向けた取組みを実施中であり、引き続き定員管理の適正化に努める。

ラスパイレス指数
平成18年度より給与水準の引下げ、年功的な給与上昇の抑制など給与構造改革を導入しているが類似団体平均を上回っている。今後、初任給基準の見直しに取り組みとともに、給与構造改革の更なる推進を図り、給与水準の適正化に努める。